

本を選ぶ

高校図書館版

NO.19 1995年(平成7年)5月10日

●発行/ライブラリー・アド・サービス

本社 千162 東京都新宿区下宮比町2-28 飯田橋ハイタウン517 TEL.03-3235-6168

ぶっく・えんど

ほんのすこしの昔

先日、若い建築家と話をしていたら、洗濯板という単語が通じなかった。数十年前まではごく普通の日常生活の必需品だったのが、ほとんど使われなくなったせいか、住宅の設計を数多く手掛けている人なのに、知らない、という。もしかしたら読者の大半がご承知でないかもしれない。最近いくら復活したのか、ちらほら見掛けるようにはなった。実用しなくなったものは伝えられず早々と消え去るのだろうか。

それ以後、若い人に会う毎に、あなたは洗濯板を知っていますか、使ったことはありますか、と尋ねたりした。知らない、見たことがあるような気がする、という程度の答えが返ってくる。使われなくなった生活の道具は実感を喚起しないからとたんに忘れられてしまうらしい。やせぎすの男の子を、洗濯板みたいな、などとあばらの浮き出たさまから連想して形容していたのだが、これも通用しないものか。きっとこんな例はうんとどこっさりあるのだろう。

これが世に言うところの世代のズレというものなのだろうか。数世代となるとこのズレは顕著となり、避けられないものだけれど、こうも近接する世代間で共有するものが希薄になるとは、いささか気になる。ほんのすこしの<昔>を共有できないのだから、ちょっぴり寂しいではないか。年配のひとから、昔はなあ、と話を聞けばおぼろげながらイメージができたものだけれど、そんな具

合にはいきにくくなったのだ。順繰りに、というわけにはいかない。伝わるものが伝えられなくなってきたのだから、ぼちぼち消えていくのではなく、続かぬままふつり途絶えてしまう。連続とつながってはいかないことが普通になると、いろんな場面で連続性が失われていく。

そう言えば、年高と書いてもトシカサと読めて意味のわかる人は若い人たちの中にはほとんどいまい。使わなくなったからだ。目上、年配者などというのも毎日の会話ではまず聞かれない。何故使わなくなったのか。よく考えてみる意味はありそうだ。

ところで、高等学校の図書館ではかつて自分たちが読んだ本をそのまま読むことができるのだろうか。いやいやこれは難しかりう。本が出版され続けていなければ、買って置いておくことはできない。あつたとしても、今の若者たちにアピールしないとして、選ばれない。それにこの頃は出版点数がかつての数倍、年間5万点というから、わざわざ昔の古ぼけたのでなく、今風のがたんとある。次から次へと出されていく。だから若い人たちに手ほどきする側も、若かりし頃の自分が読んだ本と少しばかりの同時代の本について語ればよかったのが、そうはゆかなくなったのだ。一緒になって次から次へと本を読み続けるか、洗濯板をかかえて黙り込むか…。

でも、ひとつだけ提案しておこう。まさか図書館に洗濯板はないだろうから、自分がこれまでに読んだ本、というブックトークを若者たちにしてはいかがか。目を輝かせて耳を向ける高校生の姿が私には見えるような気がするのだが、どんなものだろう。

(埜村 太郎：竹林舎)

本の貸出もパソコンで始める

私のコンピューター導入奮闘記⑥

木下通子

パソコンと手作業の二本立て

春休みに1993年度の受け入れ図書データの貸出ソフト「かすぞう君」で使えるようにして、4月から一般図書の一部をパソコンで貸すことにしました。「かすぞう君」については本誌17号でちょっと説明しましたが、「LIBROS」のデータが取り込めるように他校の図書館で開発した貸出ソフトです。パソコンを使って貸出をすると言っても遡及データの入力が終わっていないので、パソコンで貸せる本と、貸せない本があり、それをどうするかちょっと悩みました。パソコンで貸せるかどうか見分けるのは、すごく単純。うちの学校って、古い本には桁数が違うバーコードが二枚貼ってありますよね。（この謎についても、本誌17号をお読み下さい。）バーコードの貼り直しをしたのが1992年の3月だったので、本に貼ってあるバーコードが一枚の本だけ、パソコンで貸出し、二枚貼ってある本は手作業で貸出すことになりました。

もう一つ困ったのは、「LIBROS」を選び、「かすぞう君」での貸出を考え始めた1992年度と1994年度とでは、うちの図書館の状況がすごく変わっていたのです。まず、1992年度には5,312冊しかなかった年間の貸出が1993年度の末には11,408冊と倍になっていました。貸出が伸びるのにもなって、予約も増えてきます。ソフトがどこまで対応してくれるのか、心配でした。

いちばん悩んだのは、統計処理。貸出を伸ばそうと積極的に取り組むまでは、貸出統計の取り方もおざっぱだったのですが、貸出が増えるにつれて、統計もどんどん細かく取るようになりました。今は、月間、クラス別、学年別、分類別で統計を出し、分類別の統計は学年別にも分けて、どの学年がどのジャンルの本をよく読むのか知る資料としています。ところが、「かすぞう君」は分類別の統計を学年別に細かくとってくれません。導入のときにはこんなことを考えもしなかったのですが…。そこで、コミック以外は、パソコンで貸し出せる本も手作業での手続きもすることに、貸出を始めました。

実際の貸出し手順は

パソコンでの貸出作業は、コミックの貸出で練習した成果でしょうか、思ったより苦労しませんでした。コミックはパソコンのみでの貸出。パソコンにデータが入っている本は、①パソコンで貸出して、②チケットに貸出日と利用者の出席番号（職員の場合は名前）を記入し、本の後ろに入っているブックカードを抜いてクリップで止めます。このチケットは一冊につき一枚、貸出のたびに作ります。パソコンにデータが入っていない本は②の作業だけをします。返却のときには、パソコンで返却処理をして、その後、ブックカードを探し、クリップでとめてあるチケットを捨てて、本にブックカードを戻します。貸出作業は基本的に司書が行います。が、昼休みなどめっちゃくちゃ忙しいときは、図書委員の生徒が手伝ってくれます。短時間にたくさんの利用者がカウンターに押し寄せて来たときには二重作業はめんどくさいですが、だんだん要領が良くなってきて、今はこちらもそんなに苦労せず、利用者もお待たせせず（こちらが思っているだけだったりして…）、作業できています。

本の受け入れは

1994年度からは本のデータを入力したら逐次、「かすぞう君」に貸出データを落とすことにしました。まず、司書室にあるパソコンで「LIBROS」にデータを入力し、「LIBROS」の機能を使って入力し、さらに「かすぞう君」へそのデータをわたせるようにします。この作業はあっという間です。そして、フロッピーの状態で貸出用のパソコンにデータを移します。一回に多くても20件くらいのデータしか落とさないのが、こちらの作業は1分くらいでできます。本はほとんど毎日受け入れられているので、毎日この作業を繰り返しています。現在の市販の貸出ソフトには、マスターのパソコンにデータを入力すると、自動的にオンラインでつないである端末のパソコンからそのデータが使えるシステムになっているものが多いようです。こうなると、端末毎にフロッピーでデータを

移しかえなくてすむから便利ですよ。

バーコードを貼るようになってから、蔵書印などのはんこを押すのをやめました。バーコードが貼ってあればこの図書館の本かわかるからです。ただ、蔵書が全部入力できていないのに図書台帳をつけていないので、基本カードを一枚作っています。ブックカードも、前述の貸出方法に必要なのでまだ作っています。具体的にいうと、本の整理はこんなふうに行っています。

①本が届く、②バーコードを貼って登録番号を与える、③背ラベルを作成、④基本カードを一枚とブックカードを一枚作り、分類を記入し、登録番号をナンバーリング、⑤パソコンに入力、⑥貸出用データ作成、⑦貸出用のパソコンに落とし込み、⑧ブックカーかけ、⑨新刊コーナーへ本を並べる。

データをパソコンに先に入力してしまって、手作業を後からすることもあります。プリンターの関係もあってうちの学校ではやっていませんが、パソコンが入っている学校では、カードやラベルの打ち出しも自校のプリンターでしているところがあります。そうすると、一回入力すればいろいろな形で加工できるからかなり便利です。

使ってみてわかること

実際に使ってみるまでは気がつかなくたってけれど、「かすぞう君」を使っていくうちに、こうだったらいいな、うちの図書館にはこうなっていた方が使いやすいなという部分がたくさん出てきました。さて、ここで問題になるのは、「かすぞう君」は、うちの学校の中で作ったソフトではないこと、他校の図書館の状況にあわせて開発された貸出ソフトだということです。

たとえば、まず日計の統計はハードディスクが使えず、フロッピーで蓄積していくので、その容量に限られるという問題。予約がかけられる件数 etc…。校内でソフトの手直しができないので、どうしようもありません。

もちろんパソコンで貸出するようになって、メリットもありました。手作業と二重チェックできるお陰でこちらの手続きミスが減って、督促などに関して利用者にめいわくをかけることが減りました。が、統計処理など、こうなればいいと思

う部分がたくさんあります。

システムを考え直そうか…

うちの学校では二年に一回くらいの割合で、施設設備の近代化予算というのが計上されます。伝統校ということもあり、修理・更新しなくてはいけない設備がたくさんあるし、大物の新規購入が一般予算でできない貧乏な学校なので、この近代化予算要求の際には、分掌、教科、部活動とも、ここぞとばかりに買って欲しいものを要求します。連載をずっと読んで下さっている方はご存知だと思いますが、図書館にパソコンが入ったのもこの予算です。この予算の難点は、その後に維持が必要なもので維持費まではつかないということ、そういう意味では導入後も細かいお金がかかる学校図書館へのコンピュータ導入などには、向かない予算なのかもしれません。今年の1月に校内で近代化予算を要求する機会があって、図書館にはもらえないだろうなと思いながら、図書館のシステムを変更したいという要求を出しました。結果は残念ながら、×。予算はつきませんでした。

パソコンと手作業の併用の形で貸出を見切り発車して約一年。貸出が予想以上に伸びてきたこともあって、コミックだけ貸出していたときにはわからなかった問題点がたくさん出てきました。「かすぞう君」のシステムを、うちの学校の状況にあわせてプログラムし直すことが残念ながら現状では無理なので、市販の学校図書館ソフトを購入することを考えようかなと真剣に考えています。

まだたくさん残っている遡及入力のこと、システムを変更するのならどんなソフトを選ぶか、今までお金をかけてきたことが無駄にならない、いちばん良い方法をこれから考えていかなきゃと思っています。私も岩槻商業高校に勤務して十年目が終わろうとしています。きっとあと何年かで異動することになるでしょう。パソコンがこのままの形で私が異動しちゃったら、次にくる司書の人には困るだろうな…。そんなことを考えながら、1995年の春休みが過ぎてしまいました。

(きのした みちこ：埼玉県立岩槻商業高校図書館)

被災地の学校図書館から—それでも春が来ました—

飯田寿美

どこからか小鳥たちが戻ってきて、木々も芽を出し始め、被災地にも春がやってきました。どこもかしこもショベルカーが動いて、毎日街の姿が変わっていきます。私の育った家も跡形もなく消えてしまい、米びつのあったあたりにスズメが群がっているのが哀しかったです。

3連休がおわった1月16日の夜、「明日は机の横の本の山を片付けて、そろそろ年度末の準備に入ろう」などと確かに考えながら寝たのですが翌朝の一揺れで、家や道路と一緒に頭の中まで崩れてしまい、近所の壊れかけた家の中で茫然としている母と寝たきりの父を連れてくるやら、メチャメチャの家の中を片付けるやら、水と食料の確保に走るやら、しばらくは学校のことなどほとんど考える余裕がありませんでした。といってもはつきりとした記憶はありません。例えばその日一日何を食べていたのか、全く思い出せないのです。ただ、水も電気もガスも電話も電車もなくなって、世の中がとても静かだったという印象と、夜が明けていくのが本当に嬉しかったことだけは覚えてます。

三日目になって、自分の家でさえ本の海になっていたのだから図書館はさぞかし、と思いながらトボトボと学校まで歩いて行ってみました。おそろおそろドアをあけてみると、なんと将棋倒しになっていた書架を、東京と静岡の姉妹校からの応援部隊と通勤可能な先生たちで丁度全部立てて下さったところでした。だから私は、一番ひどい状態を見ていないのです。ちょっと残念。心配していたコンピュータも、スイッチを入れてみると、カタカタといつもの音をたてて無事に立ち上がってくれ、ほっとしました。もしも使っている時だったら壊れただろうと言われました。ディスプレイが1個床に落ちてダメになりましたが。AV機器は、キャスターつきの台に乗っていたので無キズ。今度は食器棚にもキャスターをつけると叫んでいた先生がいました。他には、吊り下げた形の照明が一部破損、これは危ないので5個全部取り外し、いずれ天井に密着した形のものになるは

ずです。カードボックスも倒れて、引き出しがいらなくなりました。コンピュータを使うようになって以来、いつカード(書名のみ残してました)をやめるべきか悩んでいたので、この際やめちゃおう!と決意。まあ、このくらいですからひどいところに比べれば幸運だったということでしょう。

それでも6万5千冊のざっと6割の本は放り出されており、余震が来たらまた落ちるのにも思いますが、学校が再開され生徒が来る前にと司書二人がしゃかりきになって整理し、なんとか1月30日の登校日までには閲覧室を復旧、その後グチャグチャになっていた書庫(電動の密集書架は無事でした)や物置も片付け、ついでに開館以来20年間の様々なゴミも大量に捨てました。鋭い生徒が「センセ、これほんまに地震のゴミだけ?」と聞きました。しかし、交通機関が寸断されているため、授業が始まっても短縮で休み時間は5分、お昼休みも40分、放課後もすぐに下校というスケジュールでは、ゆっくりと図書館に来る時間がありません。「今は読みたいくない」という生徒もあり、おまけに暖房が入らなくなってしまってひたすら寒く(私の耳には生まれて初めてしもやけができました)、一生懸命復旧した割には、しばらくは利用が低迷しました。本を読むという行為には、物理的にも精神的にも余裕が必要なんだと思い知らされました。その後、授業が中途半端になって、レポート学習に切り替えた教科があって、少し利用が持ち直しました。

一部菱形になってしまった書架もあり、一応立っている書架もそれぞれが好きな方向に少しずつゆがんでいるので、この春休みを利用してもう一度全部本を下ろして書架を組み立てなおし(1877台分です)、さらに柱を立てて書架の上で連結する工事をしてもらっています。図書館を新しく建てる時、確か耐震構造にと提案したのに、この辺には大きな地震なんて来ませんよと一笑に伏したのは誰だったっけ。100年に一度の大地震だとしたら、この努力が役に立つ頃には私は…。

「震災」が「図書館」を「壊す」

「震災」が「図書館」を「壊す」

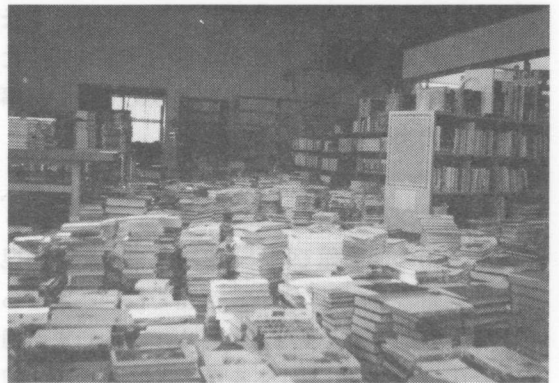
学校は、生徒一人を失い、昨年完成したばかりの研修施設4棟の内2棟が全壊するなど被害も軽くはなかったのですが、教室等の基本的な部分が大丈夫だったので、卒業式や期末テスト、終業式と、とにかく学年末を迎えることができました。他の私立校では、交通機関が通学可能な状態になるまで1か月近く休学したため春休みがないところも多いようです。私立学校というのは交通網が発達してこそ可能なのだということがよくわかりました。神戸ではかなりの高校が入学試験を書類審査のみにしました。校舎がほとんど全壊、半壊といったところもあり、加えて被災者への学費免除など、経営上これからが大変だと思われます。

公立校では、阪神地区（宝塚市・西宮市・芦屋市・尼崎市・川西市・伊丹市）の高校42校の内2月末で休館しているのが14校あります。そのほとんどが、学校自体の損傷が大きく、仮設校舎を建てるなどの緊急対策に手をとられ、図書館の修理はいつになるかわからないといった状態で、1995年度の図書費を危ぶむ声も多く聞かれています。司書のいるところでさえこれですから、司書のない小学校・中学校、そして神戸市（商売上手の金持ちといわれる神戸市には、一人も司書がないのですよ！）の図書館は、避難場所になっている場合もあり、放置されたままのところが多いようです。その実態を調べて、必要なところにはボランティアを送ろうという動きが今始まりました。県外からもお手伝いの申し入れがあり、そういった声も生かした活動ができるといいのですが。

また、かなり早い時期から、避難所へ出向いて読み聞かせやお話の会を開いている司書や文庫の方たちのグループもあります。県外だけではなく被災地の人も加わったこの活動に、自分の家と仕事のことだけ考えていた私は、本当に頭が下がりました。

ついでに公共図書館の様子はというと、本が落ちただけのところから、書架が大破した、スプリンクラーが作動して本が多数使えなくなった、避難の人が落ちてい本の上に暮らし始めてしまっ

「震災」が「図書館」を「壊す」



本を全部おろした様子

たなど、いろいろ。でもとにかく司書は市の職員として避難者の世話など緊急の場所に行かされて、図書館を片付ける手がないという理由で、被害が少なくとも1か月以上閉館になっていたところがいくつもありました。それももったもなことだと思うのですが、こんな時こそ必要な情報を提供する義務があるのではないかとも思いました。

片道3時間半かかるので少しも片付かないと嘆いていた人、今は図書館にいるときではないと消息のわからない生徒を探しに出かけた人、書架を修理するのに300万円の見積もりを出したのについてのは老人福祉対策のおじいさんと10万円の予算だったとあきれられる人、どうせ家がなくなっちゃったから朝から夜遅くまでよく働いてるわよと笑った人…それぞれの司書がいつまでも忘れられない経験を重ねながら、奮闘中です。

被害に轻重はあっても、もうあの日より前には戻れないというのが、皆に共通した気持ちではないでしょうか。明日は今日の続きではないかもしれない、とってしまうと、すべてが違って見えます。私も何だか働き者になりました。

身についたリュックとジャンパーとスニーカーという被災者リュック（これはいい！）で、これも習慣になった30分の徒歩通勤の途上、咲き始めた花などをながめながら、この被災を逆手にとってもっと変えられるところはないかと考えています。朝の頭はなかなか動きませんがね。ほちほちと、したたかに、といったところです。

（いいだ すみ：私立小林聖心女子学院学習センター）

★誌上ブックトークテーマはピアス—第2回—

ピアスをテーマと決めて1週間が経ちました。ブックトークの組み立てを考えるのに十分な本を見つけられませんでしたので、ピアス関連の本とピアスそのものについての情報を求めて新聞記事を探し始めました。

新聞記事をCD-ROMで

まずK市の図書館でHIASKを読みました。顔見知りの司書の方がカウンター当番でないときならばいつでもどうぞと教えてくださいました。通されたのは作業室。HIASKを読むといっても、司書さんが操作しているのを私は隣に座って見るだけ。HIASKは1年分の朝日新聞の記事を収めたCD-ROMです。ピアスの件名で検索すると、ピアスについて触れている記事の、見出し、掲載年月日、朝夕刊の別、図版の有無、地方版の場合はどこの版なのかがコンパクトに画面に出てきます。ほとんどの記事は本文を読むことができますし、プリントアウトもできます。1985年～1993年までピアスをキーワードにして検索し、いくつかについては本文を読み、そのうちのいくつかについてはプリントアウトをして、気がつくと2時間が過ぎていました。『ピアスをした女性技術者たち』などそのものずばりの本の紹介もみつけました。

翌日図書館で、司書のCさんがピアス関連の記事名をプリントした紙を渡してくれました。見ると朝日新聞以外の新聞名が入っています。個人的な関心もあって情報図書館RUKIT（東京都新宿区）に出向いて、調べて下さったということでした。こうして朝日以外の新聞記事を縮刷版で読むことになりました。

縮刷版で探すピアスの資料

私の住む町の図書館では朝日、読売、毎日、日経の4紙の縮刷版を1年分だけ保存していることがわかりました。県立図書館に行ってみると、午後も遅い時間の新聞雑誌のフロアはさすが県立という賑わいでした。ここでは、誌名といつのものを読みたいのか、それを所定の用紙に記入してカウンターに出します。それを持って司書が書庫に

探しに行きます。二度出かけましたが、二度とも司書は一人でした。ですから一人の希望資料を探しに書庫に入っている間に待ち人が増えていきます。前途遼遠です。東京都文京区立図書館でも利用者登録をしているので、小石川図書館に行ってみました。そこでは朝日、毎日、日経の縮刷版が数年分書架に並んでいます。コピーも自由にとれます。ところが読売新聞の分がありません。読売は同じ区立の真砂図書館にあるとのこと。道順も教えてくださったので、その足で向いました。

ピアス関連の本探しで始めた新聞記事探しでしたが、縮刷版は東京の最終版であることがわかったり、各社にサービスセンターがあり、有料ですが、マイクロフィルムから起こしてコピーをしてくれることなどがわかりました。こうして関連の新聞記事をあらかじめ手に入れましたので、これを手がかりに、本探しに精を出しました。

歴史上のピアス

鳥取県の遺跡からピアスが出土したことを紹介する記事の中でコメントをつけている藤田富士夫さんにお電話しました。すると日本では、縄文時代と古墳時代の遺跡からピアスがたくさん発掘されているけれど、それ以外の時代では見つからないこと、朝鮮半島では見つからないことなどを教えてくださいました。日本でピアスが使われていたことを知らなかったので、少々興奮しました。このとき紹介された藤田さんの著書『玉とヒスイ』は、高校生がピアスの歴史を知るには格好の一冊でした。参考文献として挙げられている本は、専門的に過ぎるようでしたが、しばらく歴史という視点から資料探しを進めました。

ギリシャ神話にもピアスが紹介されているという記事もあったので、ピアスに関連してギリシャ神話を紹介できると面白いと思い、翻訳を何種類か読んでみます。ピアスについて触れている箇所を見つけるなんて巧い具合に事は進みませんでした。これはと首をかしげる内容のものを見つけたりして、…。こんな話を高校の司書さんにしていたら、16世紀のヴェネツィアで、「嘆かわしいことだ。黒人の習慣そのままに、金の小さな輪が

ら大粒の真珠がさがったものを、耳からぶらさげている。…」と書いてある頁を開いて『海の都の物語』を出してくれました。

ピアスのブックトーク歴史編は美しい写真で締めたいと、図書館で写真集を探しました。日本の古墳時代の出土品の写真集、アジアの国々の写真集など当たりをつけて美術書の棚、歴史書の棚、旅行関係の棚を丁寧に探します。多くを見つけることはできませんでしたが、紹介できる写真が載っているかどうか1冊ずつ頁を繰ります。カラー写真で楽しむ精巧で豪華なピアスは『シルクロードの黄金遺宝シバルガン王墓発掘記』『エジプト5000年をゆく(1)(4)』『宝飾大全』、雄大な草原の生活に溶け込んでいる何気ないピアスは『写真集草原の民、自由の民大モンゴル4』でと、こんな感じでしょうか。

民族固有の文化として

在日外国人の子どもがピアスをしていることで、学校で差別を受けた関西地方のある市の事例を『「ちょっと」はちょっと』で読みました。早速その教育委員会に電話をすると、職員が研修会で聞いてきた話を著者に紹介したが…とのことでした。そこでその研修会の講師に電話。これは講師が以前関東地方の定住センターに勤務していたときのことで、驚いたのですが、内容は逆でし

た。ピアスをして日本の学校に登校した東南アジアから来た小学生たちに、学校は装飾品をつけ登校しないように指導し、その子どもたちがピアスの穴に楊子を挿して登校したのをきっかけに、今度は先生方が、ピアスはその子どもたちにとって民族の女の子としてとても大切なことで、それを一方的に禁止できるのだろうかと考えて、日本人の子ども共々それぞれの民族の固有の文化について学んでいった事例として紹介したそうです。私たちがモンゴル大使館に電話でたずねたときも、モンゴルでは女の子が6、7才頃にピアスをつけるのは自然なことですということでしたし、ピアスは日本の若者の風俗という問題を越えたテーマなのかもしれません。

そのうち岩槻商業高校の木下さんから、JAPAN MARCで検索をしてみましたというファックスが、図書館のCさんから大宅壮一文庫の目録にありましたと雑誌情報も入ってきました。(LAS探検隊)



情報図書館RUKIT/東京都新宿区揚場町2-1 軽子坂MNビル TEL03-3266-9315

HIASK (朝日新聞東京・大阪・西部・名古屋本社発行の朝夕刊を取めたCD-ROM) 日本経済新聞・毎日新聞・読売新聞からもCD-ROMが出ている
 『ピアスをした女性技術者たち』(田村奈穂栄/講談社)『玉とヒスイ』(藤田富士夫/同朋舎出版)『古代人の化粧と装身具』(原田淑人/刀水書房)『海の都の物語』(塩野七生/中央公論社)『シルクロードの黄金遺宝シバルガン王墓発掘記』(岩波書店)『エジプト5000年をゆく(1)(4)』(日本テレビ放送網)『宝飾大全』(読売新聞社)『写真集草原の民、自由の民大モンゴル4』(角川書店)『「ちょっと」はちょっと』(彰飛/講談社)

THE IOC
BEST OF SPORT PHOTOGRAPHIC CONTEST
 ベスト・スポーツフォト・コンテスト5
 IMS/スタジオ6 ベースボール・マガジン社 編集
 定価8500円(税込) ●好評発売中//カラー46頁、モノクロ34頁
 世界の頂点に立つアスリートをトップクラスのカメラマンが追い、そして決定的なショットをとらえた。勝とうとする人間の美しさと厳しさを鮮やかに表現するこれは人間讃歌の写真集である。
 ●BEST 1~4好評発売中 (1は8000円、2・3・4は8500円)
 体商・スポーツ総合出版
 株式会社ベースボール・マガジン社 〒101東京都千代田区三崎町3-10-10 ☎03(3238)0181

百科全書の最高峰 日本文化研究の基本図書
古事類苑
 全51冊へ予約募集中 5月刊行開始
 歴史・文学・宗教・法律・政治・経済・地理・服飾・家政・芸能・姓名・動植物等々、日本文化の全分野にわたり、古代から江戸時代末に至るあらゆる史料を項目別に網羅類聚した不朽の歴史百科全書。 学校・図書館に必備！
 ▼全巻の予約申込者にはのみ頒布し、分売はいたしません。
 ▼平成7年5月20日第1回配本。以後毎月一冊ずつ配本
 ▼予約特別定価 一冊八、九一〇円(配本のつど払い)
 ▼A5判変型・上製本函入/平均一五〇〇頁
 目録 113 東京都文京区本郷七丁目二一八
 送呈 電話〇三三三八三一九一五
吉川弘文館

ヤングアダルト図書総目録



ヤングアダルトとは、ティーンエイジャーの年頃をさす「若い大人」という意味です。ヤングアダルトを対象としたあらゆる分野の本を収録した'95年版図書目録!! 頒価300円

ヤングアダルト図書目録刊行会

〒162 東京都新宿区東五軒町6-24 トーハン内 電話(03)3266-9587(代表)

Gidon Kremer Kindheitssplitter

ちいさなヴァイオリン

山本尚志+馬場広信/訳
ギドン・クレメル 自

「ぼくって、いったい、誰なんだろう…」
素朴な疑問に眠れぬ夜を過ごす12歳のギドン少年が、不安と自信のあいだで揺れ動きながらも音楽への愛に目覚め、18歳でモスクワ音楽院に進むまでの姿を回想と当時の日記で瑞々しく描く、天才ヴァイオリニストの

珠玉の自伝誕生!

来日記念緊急発売!
四六判・上製・224頁
5月中旬刊・1648円(本体1600円)
新図書目録同送



リポレポート

〒170 東京都豊島区東池袋4-27-10
tel.03(3983)6191 fax.03(3983)6193

オックスフォード流勉強法とは?

わたしのオックスフォード

川上あかね 何よりも学問優先の環境。四季折々の伝統行事。大学町の散歩術。入学から卒業まで、学生生活を生き生きと綴る。1600円

晶文社

*価格は消費税込みです。
東京都千代田区外神田2-1-12
電話(3255)4501



西脇順三郎詩集

詩的言語に新領域を拓き、日本の近現代詩に衝撃を与えた西脇順三郎のエッセイを成す代表的詩集を復刻

<復刻版>

Ambarvalia アンバルワリア

木下常太郎 解説/B5判変型箱入/定価5,500円(税込)

旅人がへらす

西脇ワールドの開始を告げる戦後初詩集
B6判上製箱入/定価3,500円(税込)

近代の寓話

感覚、知性、哀愁、無常感等が混然一体の中期詩集
B5判変型箱入/定価5,000円(税込)

第三の神話

第八回読売文学賞を受賞した記念碑的作品
B5判変型箱入/定価4,500円(税込)

恒文社

〒101 東京都千代田区三崎町3-10-10 ☎03(3238)0181

ミネルヴァ書房

発達心理学辞典

岡本夏木/清水御代明/村井潤一監修 各分野の第一線で活躍する266人の研究者・専門家による厳選の1621項目を収録。関連他領域からも項目を選定。ひきやすいように、和文・欧文索引を充実。 6500円

教育の原理と実践

倉田侃司/山崎英則編著 学生自身が経験してきた教育体験をベースに、今日的教育課題に答える。2500円

早期発見・拒食症・過食症のQ&A

東淑江編著 思春期、大人への旅立ちの直前につまずいてしまった少女たちの自立を応援する。 1600円

〒607 京都市山科区日ノ岡堤谷町1 ☎075-581-0296

第30回日本翻訳出版文化賞受賞 双書・20世紀の詩人

最新刊・第17回配本 ボブ・ロフスキイ詩集

神品芳夫・田中謙司編・訳 東欧諸民族の共存と再生への希望を謳った詩人のわが国初の選詩集。

■好評既刊

- アポリネール詩集 イヴ・ボヌア・オフ詩集
- エズラ・パウンド詩集 オーデン詩集
- ディラン・トマス詩集 シルヴィア・プラス詩集
- ホフマンスタール詩集 リルケ詩集
- パウル・ツェラン詩集 ウンゲレツェイ詩集
- ガブリエラ・ミストラル詩集 トラークル詩集
- エリユール詩集 バステルナーク詩集
- デレック・ウォルコット詩集 ラディゲ詩集

● B6変型判上製カバー装・各巻一四〇〇円

小沢書店

東京都豊島区雑司谷2-4-1 TEL5992-2441